

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒個々の「生きる力」を伸ばし、進路を切り開く力をつけるとともに、地域と密接に連携した教育活動を行うことで地域に信頼される高校をめざす。

- 1 生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を展開し、「確かな学力」を育成する。
- 2 キャリア教育の充実に努めるとともに、「自立支援コース」並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 3 教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
 - (1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業力の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
 - ア アクティブラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。
 - イ 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業力の向上に取り組む。
 - ウ 国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。
 ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成 26 年度 76%)を上昇させ、平成 29 年度には 85%以上にする。
 - (2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。
 - ア 学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。
- 2 進路意識の高揚とコース制の充実
 - (1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実に努め、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。
 - ア 総合的な学習の時間(ライフ・プランニング=L P)、L H R (ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努める。
 - ※ 進路決定率(平成 26 年度 86.7%)を上昇させ、平成 29 年度には 95%以上にする。
 - ※ 学校紹介就職内定率(平成 26 年度 90%)を上昇させ、平成 29 年度には 100%をめざす。
 - (2) 「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。
 - ア コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実に努め、進路実現につなげる。
 - イ コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。
- 3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成
 - (1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
 - ア 規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。
 - イ L P、L H R において、人権学習を計画的に実施し、人権意識の高揚を図る。
 - ウ 「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。
 - エ 防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。
 ※ 遅刻について、前年度比 10%の減少を図る。
 - (2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を醸成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。
 - ア 学校行事、生徒会活動の活性化を図る。
 - イ 部活動の活性化を図る。
 - ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に努める。
 - ※ 部活動加入率(平成 26 年度 56%)を上昇させ、平成 29 年度には 65%以上にする。
- 4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化し学校力の向上
 - (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。
 - ア 中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
 - イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者等との信頼関係を高める。
 - (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、「わかる授業」「生徒の主体的な授業参加と活動量の増加」の実現に向け、研修、実践、振り返り(教科内協議等)を行った結果、生徒の回答では、授業準備 86.5%(H26・78.3%)、課題提出 82.0%(H26・77.8%)、パソコン等を使った授業 83.4%(H26・77.6%)と肯定的回答が上昇し、授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る満足度も 79%(H26・76%)となった。教員の回答でも、学習指導等の協議 76.2%(H26・58.8%)、教科指導の工夫 88.1%(H26・77.1%)、学習形態の工夫 90.5%(H26・67.6%)と肯定的回答が顕著に上昇した。今後は、取り組みの継続・発展と共に、授業規律 50.3%(H26・47.6%)等について、改善策の検討が必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の回答では、「学校に行くのが楽しい」74.2%(H26・70.8%)、「自分のクラスは楽しい」77.9%(H26・76.0%)、「先生の指導に納得」55.4%(H26・53.1%)と肯定的回答が上昇したが、保護者では減少した。今後も組織的な生徒指導、自尊感情の醸成、相談活動の充実に努め、安全・安心な学校を一層育てていく必要がある。 ・生徒の「進路や生き方について考える機会がある」は肯定的回答が 78.5%(H26・83.5%)、保護者の「進路や職業等について丁寧な指導を実施」は 71.0%(H26・73.2%)で、教員の「きめ細かな進路指導の実施」は 73.8%(H26・75.7%)、「望ましい勤労観職業観が持てる系統的なキャリア教育の実施」は 59.5%(H26・67.6%)にとどまった。系統的キャリア教育の確立、充実に喫緊の課題である。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の「教育活動全般の評価と次年度の計画」への肯定的回答は 80.9%(H26・70.3%)、「日常的な話し合い」は 76.2%(H26・75.0%)であったが、「経験の少ない教員へのフォロー体制」は 64.2%(H26・79.5%)にとどまった。学校経営計画に基づく各分掌、学年等での具体的な実践内容について、目標やスケジュールの共有を含め、早期に共通認識できる体制づくりに努めていく必要がある。 ・教員の「PTA活動への参加」の肯定的回答は、52.4%(H26・41.0%)にとどまったが、年々増加傾向にある。今後は、授業やL P・L H R、学校行事における地域や保護者との交流・連携と共にPTA活動への積極的な参加を行い、適切な情報発信に努め、教育活動の活性化と学校力の向上を図っていく。 	<p>【第 1 回 (5/29)「平成 27 年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿武野高校は良い方向に変わってきている。継続した生徒指導等、保護者・教職員が一体となり取り組んできた成果だといえる。 ・トップが代われば学校も変わる。不安もあるが、期待している。 ・教職員、保護者、地域の連携と協力で生徒が自己実現できるように育ててほしい。 ・「あいさつ」は生きる力となる。生徒指導と共に、学校でしかできない集団へのしつけをお願いしたい。 <p>【第 2 回 (10/14)「進捗状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業等で ICT 機器を有効活用することで、授業の活性化だけではなく、生徒同士をつなぐ力を育てることができる。先生方の負担にならないよう工夫しながら進めてほしい。 ・早期に進路を決めた生徒にどう対応するか。大学入学後の学力確保のためにも、今後、高校と大学で協力していく必要があるだろう。 ・改正道路交通法の施行について、生徒への指導を適切に行っていく必要がある。 ・学校リーフレットは、各種の取り組みがバランスよくアピールされていてとても良い。また、「つながり、ぬくもり、ときめき」のフレーズもわかりやすい。 ・「あぶねっと」や生徒会・部活動を通して、生徒が様々な地域の活動に参加し、良い評価をされている。これからも、地域との連携を推進してほしい。 ・地域の評価を生徒達にフィードバックできる機会があってもいいと思う。 <p>【第 3 回 (2/1)「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価(案)について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育では、「身近な大人インタビュー」や「あぶネット」等の体験活動を今後も大切にしていきたい。情報化社会が進む中で、自尊感情を高め、自分しにできないことを探すことが大切になるだろう。 ・部活動の活性化は、今後も進めてほしい。 ・遅刻指導は、システムがしっかりしているので、生徒も保護者もわかりやすい。 ・先日、文部科学省がコミュニティスクールを増やしていくという取組を聞いた。内容を聞くと、阿武野高校がすでにやっていることだったので、うれしかった。 ・阿武野高校は、年々、目標達成の数値を上げているところがすばらしい。 ・教員と地域が協力して、どんどん良くなってきている。今後も色々なことに取り組んでほしい。

府立阿武野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業力の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。 (2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。	(1) ア・対話型、発表型の授業を行う等、アクティブラーニングを取り入れ、生徒の主体的な授業参加と活動量の増加を図る。 ・各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。 ・課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。 ・ICTを活用した授業づくりを推進する。 イ・授業交流週間(1・2学期)の実施、授業アンケート結果の活用により、学校全体で課題把握、授業の質の向上を図る。 ウ・国際交流事業(ケント高との相互交換留学)や英検受検を通じて英語力と国際感覚を養う。 (2) ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、学校全体で統一した指導を行う。	(1) ア・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度76%→79%。 ・管理職による授業観察時の目標明示100%。 ・ICTを使用した授業が多い78%→81%。 イ・教員相互の授業見学、研究授業の参加者のべ250人以上。 ウ・英検受検者30→40人。 (2) ア・クラス清掃をきちんとする61%→64%。 ・私語が少なくしっかり授業を聞く48→51%。	(1) アイ・授業アンケート結果を踏まえた教科別協議を行い、全教職員で共有した。興味関心・知識技能に係る授業アンケート満足度は79%で、同時に課題提出82.0%(H26・77.8%)、パソコン等を使った授業83.4%(H26・77.6%)と生徒の肯定的回答が上昇した。教員の回答でも、学習指導等の協議76.2%(H26・58.8%)、教科指導の工夫88.1%(H26・77.1%)、学習形態の工夫90.5%(H26・67.6%)と肯定的回答が顕著に上昇した。(◎) ・ICTを活用した授業は年間2000時間以上。(◎) ・教員相互の授業見学、研究授業の参加者延べ300人以上。(◎) ウ・英検受検者23名(6・1月)。(△)6月の合格者は3級4名、準2級2名。7月にケント高から生徒4名教員1名を受け入れ、3月には本校生徒4名の派遣を予定。 (2) ア・クラス清掃に係る肯定的回答は62.0%。(△) ・授業規律に係る肯定的回答は50.3%。(○)
2 進路意識の高揚とコース制の充実	(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。 (2) 各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。	(1) ア・3年間で、LP、LHRにおける系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部、学年が協力する。 ・1年次は自尊感情の育成とともに、LP「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の3者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する。 ・2年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。 ・3年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路希望実現100%をめざす。 (2) ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。	(1) ア・保護者面談を在校生生徒数の1.5倍以上実施。 ・進路目標確定93%。 ・進路指導部による進路相談を200回以上実施。 (1)(2) ・進路や生き方を考える機会がある84%→87%。 ・進路決定率87%→90%。 ・学校紹介就職内定率90%→93%。 ・卒業時進路満足度87%→90%。	(1) ア・1年生は、LP「素敵な大人インタビュー」を情報科と連携して実施。大学見学、年2回の基礎学力調査等、進路意識向上のための新たな取り組みを実施。(◎) ・2年生は進路関係のLHRを年間9回実施し、教材の工夫、外部専門機関との連携等で進路意識の高揚を図った。進路目標確定率は98.5%。(◎) ・必要に応じて保護者面談を実施したが、延べ回数は在籍生徒数の1.0倍にとどまった。(△) ・進路指導部による進路相談は年間384回。(◎) ・「進路や生き方について考える機会」の肯定的回答(生徒)は78.5%。(△) ・3年生 進路決定率89.2%。(○) ・学校紹介就職内定率100%。(16人)(◎) ・卒業時進路満足度88.9%。(△) ・系統的・継続的なキャリア教育の確立、充実については、喫緊の課題として取り組みを進める。 (2) アイ・スポーツ専門コースでは、体育祭での集団行動、小学校ボランティア実習・スキー実習を実施すると共に、高槻シティーハーフマラソンに参加。(◎) ・福祉・保育専門コースでは、文化祭での高槻支援学校と合同の手話コーラス、地域の幼稚園、保育園、療育園、高齢者施設との交流・実習や平素の高槻支援学校との交流等を積極的に実施。(◎)
3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成	(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。 (2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を醸成すると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。	(1) ア・全教職員による登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化する。 ・生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・生徒指導について、生徒説明と保護者連絡を密にし、生徒指導方針の理解を高める。 イ・1年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHRで人権学習を計画的に実施し、人権意識の高揚を図る。 ウ・2年次に社会貢献活動「あぶねっと」を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情を育てる。 エ・防災教育、自転車指導を計画的に行う。 (2) ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。 ・登校時の挨拶の推進により、自ら挨拶できる生徒を増加させる。 イ・部活動の活性化を図る。 ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、SC(スクールカウンセラー)、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立する。	(1) ア・遅刻前年度比10%減少。 ・基本的生活習慣の確立に注力81%→84%。 ・保護者の生徒指導方針への共感73%→76%。 ・生徒の先生の指導方針の納得53%→56%。 イ・人権の大切さを学ぶ機会79%→82%。 ウ・学校へ行くのが楽しい71%→74%。 ・命の尊厳・社会のルールを学ぶ機会79%→82%。 エ・安全教育の各学期実施。 (2) ア・学校行事満足度70%→73%。 イ・部活動加入率56→59%。 ・生徒会や部活動による地域奉仕10回以上。 ウ・個別の教育支援計画の作成と適切な支援。	(1) ア・全教職員による登校時校門指導及び年間4回の生徒指導週間を実施することで、年間の遅刻者数は4764名(H26・5342名)で、11%の減少。(○) ・保護者の「生徒指導方針への共感」72.1%(△)、生徒の「先生の指導に納得」55.4%(○)。携帯電話の校内使用を禁止していることが関連していると思われるが、今後も一貫した生徒指導を実施していく。 イ・「人権の大切さを学ぶ機会」の肯定的回答(生徒)は、77.2%。(△)今後も、LP・LHRでの人権教育について、計画的実施を図っていく。 ウ・「学校へ行くのが楽しい」74.2%(○)。「命の尊厳・社会のルールを学ぶ機会」74.8%(△)。今後も、「あぶねっと」等の地域交流を推進し、学校教育全般を通じて規範意識、自尊感情の醸成を図っていく。 エ・終業式等での講話、生徒指導だより等で、自転車通学マナー等の指導を実施。雨天時の傘さし運転を防ぐため、カッパ等の着用を義務化する予定。(○) ・4月避難訓練で「自分自身を守る、共に避難、速やかな点呼」を確認。9・1月地震防災HRを実施。(○) (2) ア・学校行事満足度は69.7%(△)。 イ・部活動加入率56.3%。(△)学年別では、1年63%、2年60%、3年43%で、新入部員の入部は年々増加している。クラブ集会の実施、地域リキョウパンや高槻シティーマラソンに協力等、活性化を図ることができた。(○) ・生徒会や部活動による地域奉仕は10回500人。(○) ウ・個別の教育支援計画は14名について作成。情報の共有と個々に応じた支援体制を確立した。(○)
4 地域の信頼感を高め、学校力の向上	(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。 (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。	(1) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・授業(特に専門コース)や特別活動等を通じて地域交流・連携を行い、本校の教育活動への理解を促す等、学校教育活動全般について適切な情報発信に努め、地域、保護者との信頼関係を高める。 ・文書、保護者メール、HP(ホームページ)等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。 (2) ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センター等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。 ・職員研修を計画的に実施する。	(1) ア・教職員による中学校訪問等100回以上。 ・学校説明会6回以上。 イ・生徒と地域との交流・連携80回以上。 ・HPをH27年度用に1学期中に改訂。 ・HP年間更新70回以上。 ・阿武野高校ニュースを年8回以上発行。 ・保護者の教育情報提供満足度77%→80%。 (2) ・伝達研修の職員会議での実施。 ・職員研修の計画的実施。	(1) ア・教員による中学校訪問は年間約50回、地域のイベントや会議への出席、引率68回で合計118回。(◎)中学校訪問は市通便の活用により効率化した。 ・中高連絡会は2回の実施で26校27人が参加。(○) ・学校説明会は校外3回、校内7回(4日中3日は午前午後2回)実施。自立支援コース説明会は校外1回校内2回実施。自立支援コース個別相談を含め、参加者は中学生564人、保護者255人、教員50人。(◎) イ・生徒と地域との交流は年間92回延べ1400人。(◎) ・ホームページを1学期に改訂すると共に、2学期にリニューアルした。年間更新は70回以上。(◎) ・文書、保護者メールによる保護者との連絡は、学年毎のメールマガジン、学習の状況、生徒指導等に関する文書通知を実施したが満足度は74.2%。(△) ・阿武野高校ニュース(中学校向け)は年2回発行。(△) (2) ・伝達研修1月末までで9回10人から実施。(◎) ・職員研修は5月「支援が必要な生徒への支援方法」・10月「ピアサポート実践」を実施。(○)